

交流広場の有効的な活用方法について

(前回の振り返り①) 地域主体の持続的なまちづくり

【今後の展開】

まちづくり計画策定後～
持続的なマネジメント組織のあり方検討

- ◆ 交流広場を核としたマネジメント事例
- ◆ イベント・情報発信・チャレンジ支援の事例
- ◆ 「担い手」「資金源」確保の現実性

【当面の取組み】

「まこまる」を活用したまちづくりの機運醸成

【交流広場 整備後】

駅前の人々が行き交う交流の拠点に

【将来に向けて】

交流広場での取組や活動を広域へ展開



まこまるを活用したイベントの様子
(まこ×まちvol.2)※写真は2016年に撮影されたものです。
運営者:まこ×まち実行委員会(地域企業等により組織)



イベントが開催されにぎわう広場の事例
(札幌市 北3条広場)
管理者・運営者:札幌駅前通まちづくり会社

(前回の振り返り②) これまでの検討成果の反映機会 【想定イメージ】

真駒内駅前地区
まちづくり計画

- ◆まちづくりの基本方針・コンセプト
- ◆各街区、広場、道路などのレイアウト
- ◆各街区の機能の方向性
- ◆周辺地域との関係性 など

真駒内駅周辺地域
景観まちづくり指針

- ◆地域の魅力の発見と共有・発信
- ◆景観づくりの方針策定
- ◆建物等に関するルールづくり など

持続的なマネジメン
ト組織のあり方検討

- ◆交流広場を核とした取組み
- ◆担い手・資金源確保の手法
- ◆広域展開の実現性 など

開発事業者の
募集条件設定

地区計画（都市計画法）
による建築制限

交流広場のあり方
ルールづくり

交通広場設計

上記のほか、当まちづくりの実現に向けた各検討段階において、
これまでいただいたご意見を反映していきます。

「真駒内らしさ」を活かしたまちづくり

南区の玄関口として

「品格にあふれたにぎわい」

「いつも誰かが何かをやっている」

人の集まりをいかに演出するか

「人員の新陳代謝」

「その場所がどうしたらより良くなるか」

南区のターミナルステーションとなる「多様な主体が持続的に話し合える場」

「地域資源の情報発信拠点」

「沿道店舗との連携」

「広場のアクセシビリティ」地域に住んでいる人たちに

「いかに関心を持ってもらい、
深めていけるか。」

これらが実現
することで

持続可能な
地域主体のまちづくりを推進

交流広場

～人々の交流・にぎわいの創出を促す広場空間～



< 交流広場の使い方に関する地域意見例 >

- ・待ち合わせや、ベンチ等で会話を楽しむ交流の場
- ・盆踊りやアイスキャンデルなど四季折々のイベント
- ・南区各地域の観光情報発信
- ・屋台やキッチンカーが並んだフードショー
- ・地産地消のマルシェ
- ・スポーツのパブリックビューイング
- ・新たなチャレンジを実現するスペース
- ・多くの人が集まるシンボルの設置 など

< 地域協議会で出された事業アイデア例 >

- ・交流広場を使ったイベント運営・管理
- ・地域資源・観光資源の情報発信
- ・子育て世代の育児フォロー
- ・レンタサイクル、駐車場運営・管理
- ・スタートアップ支援
- ・広告スペースの設置 など

交流広場

これまでにいただいたアイデア



「真駒内らしさ」を活かしたまちづくり

運営する人

南区の玄関口として

「品格にあふれたにぎわい」 **視点** 「いつも誰かが何かをやっている」
人の集まりをいかに演出するか

「人員の新陳代謝」

「その場所がどうしたらより良くなるか」

南区のターミナルステーションとなる「多様な主体が持続的に話し合える場」

「地域資源の情報発信拠点」

活用する人

視点

「広場のアクセシビリティ」

地域に住んでいる人たちに

「沿道店舗との連携」

利用する人

視点

「いかに関心を持ってもらい、
深めていけるか。」

これらを実現
するために

持続可能な
地域主体のまちづくりを推進

今後の流れ「多様な主体が持続的に話し合える場」

考えて
みる

やってみる

活動
する

展開
する

持続可能な
地域主体のまちづくりを推進